

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在、施設周辺に住宅が少なく隣組となっている地区の家も見える場所ではあるが距離がある。施設内で夜間想定訓練を行っているが、地域の方と防災に関して連携は取れているとは言えない。	地区の防災訓練への参加と施設内の防災訓練への地区の方の参加がある状態を作る。	区長様へ防災の担当の方との繋がりを作りたいことを伝えて、私設内訓練の参加についての検討をお願いして参加して頂く。	6ヶ月
2	34	急変時や事故発生時のマニュアルがあるが、再度理解しているかの確認が必要。また、救急に関する知識技術を高めていく必要がある。	現在より技術・知識を高めて、いざという時に落ち着いて対応できる職員集団を作る。	まず、施設内でのマニュアルをもとにした研修を行い、法人や救急救命などの講座を多くの職員が受ける機会を設ける。	12ヶ月
3	18	本人と共に過ごし支え合う関係ということの大切さが毎日の慣れなどで薄らいでしまうことがある。	ご利用者様の持っている力に合わせた役割をやりたいと言う思いを持って行って頂く。	ゆっくり待つことのできる職員になる。出来たことを一緒に喜べる職員になる。	12ヶ月
4	36	ご利用者様との距離の近さが良い効果がでる場合もあるが誇りやプライバシーの大切さから少し意識が離れて居る事がある。	大切な存在であること、自分であつたらこうして欲しいということをいつも心に置き接していく。	接遇チェックシートの半期に一度を大切に行い、振り返る機会を持つ。大切なされている感覚が持てる言葉の使い方など接遇の研修の実施。	6ヶ月
5	44	お通じのチェック表を毎日確認しているが、繰り返し便秘になる方がいる。	お通じの把握と個々の方それぞれの効果的な対応を専門職の意見を聞きながら行っていく。	排泄パターンや使っている薬の分析をひとりひとり行い、便秘でのご利用者様本人の負担を減らしていく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。